

地域医療連携推進法人北河内メディカルネットワーク（KMN）
地域医療連携推進評議会 議事概要

1. 開催日時 : 2023年6月2日（金）14時30分～15時40分
2. 開催場所 : 関西医科大学枚方学舎医学部棟13階「法人大会議室」
3. 構成員総数 : 5名
4. 出席構成員 : 藤本良知、大浅田寛、谷本雅洋、
吉野敬昌（意見書提出による出席）、林訓之（意見書提出による出席）
その他出席者 : 澤田敏（代表理事による指名）

5. 議 案 :

（報告事項）

- 第1号議案 2022年度の主な事業活動について
- 第2号議案 2022年度事業報告について
- 第3号議案 2022年度決算について
- 第4号議案 2023年度事業計画・予算について

（諮問事項）

- 第5号議案 KMNの将来展望について

6. 議事の経過及びその結果 :

開会に先立ち関西医科大学澤田副理事長から山下代表理事が急用のため、欠席であること、代表理事からの指名で当評議会に出席する旨発言があり、評議会構成員で審議したところ異議無く承認された。また、事務局が出席者の確認を行い、本日の評議会は構成員5名全員が出席（内、2名が意見書提出による出席）し、定款第45条に基づき有効に成立することが確認された。

定款第47条に基づき、出席した構成員の互選により藤本良知 枚方市医師会名誉会長が議長に選出された。

議長から4名の構成員の任期が当評議会までであることについて発言があり、事務局より、任期を満了する4名の構成員については、2022年度3月開催の社員総会にて重任とすることが決定されており、承諾いただけるか否か確認があった。それに対し、各構成員から承諾する旨、回答があった。議長は各構成員に自己紹介と挨拶を依頼した後、評議会の開会を宣した。

議事の経過の要領及びその結果は次の通り。

（報告事項）

- 第1号議案 2022年度の主な事業活動について

議長の求めに応じて、事務局から2022年度に実施した主な事業活動について資料に基づき報告があった。構成員からの主な評価、意見及び回答などは以下の通り。

- ・「研修・講習会（以下「研修等」という）の実施」について、小規模な病院では研修等の

開催が困難なことが多く、病院からのニーズに応えた活動であると意見があった。「関医リカレントスクール」との連携については、潜在看護師の能力を再開発する取り組みであり、非常に頼もしく思っていると意見があった。

- ・私立の学校法人では自前で研修等をする余力がなく、緩やかな連携法人を立ち上げ共同で実施を検討する動きがあることを紹介した上で、小規模な病院でも研修等を自前ですることは困難であることから、KMNの活動を経て研修等に参加できることは、非常に良い取り組みであると意見があった。
- ・世代間ギャップによる指導の困難さや人材不足が業界を問わずに問題となっている中で、KMNに参加していることが強みになると意見があった。

第2号議案 2022年度事業報告について

議長の求めに応じて、事務局から2022年度事業報告について資料に基づき説明があった。構成員からの主な評価、意見及び回答などは以下の通り。

- ・地域医療連携推進法人における事業費率50%以上について、他の地域医療連携推進法人のデータとの比較も行ってはどうかと意見があった。

第3号議案 2022年度決算について

議長の求めに応じて、事務局から2021年度決算について資料に基づき説明があった。

続いて、議長から本議案に関する評価、意見の確認があり、構成員から適切に業務が遂行されていると評価された。

第4号議案 2023年度事業計画・予算について

議長の求めに応じて、事務局から2022年度事業計画・予算について資料に基づき説明があった。構成員からの主な評価、意見及び回答などは以下の通り。

- ・KMNの次年度繰越金が1年分の年会費を上回っている点について、来年度以降は年会費を調整することや、活動を活発にさせるなど繰越金がこれ以上増加しないように対策を取る必要性について意見があった。

(諮問事項)

第5号議案 KMNの将来展望について

議長の求めに応じて、澤田副理事長と事務局からKMNの将来展望について資料に基づき説明があり、地域医療連携推進評議会委員の意見を伺いたい旨依頼があった。構成員からの主な評価、意見及び回答などは以下の通り。

- ・共同購買交渉について、統一した物品をまとめて購入することで購入費用を抑えることが出来る反面、医師が使用したい物を使用できずモチベーションが下がってしまうなど負の効果が発生する可能性もあり、非常にデリケートな問題であると意見があった。また、コマンドセンターにより地域単位の病床管理について、空床がある病院に入院することに関して、自分の希望通りの入院とならず患者が抵抗する可能性もありこちらもデリケートな問題であると意見があった。これらの問題については、今後検討して欲しいと意見があった。
- ・地域医療連携推進法人に期待される役割が今後増えていくことは間違いなく、そういっ

た意味で KMN の価値がより一層高くなることが見込まれる一方で、専任の担当者が不在の現状でどこまで役割を果たすことが出来るかは、しっかりと検討する必要があると意見があった。

- ・今後の活動にあたり専任担当者を確保した場合の資金計画に関するシミュレートをする必要があると意見があった。
- ・将来像を見ると地域医療の全体的なレベルアップが期待され、実現されれば北河内に編入が増えるなど医療分野以外にも波及し、非常に良い地域となると意見があった。

以上、議長は地域医療連携推進法人北河内メディカルネットワークの地域医療連携推進評議会に関する全ての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以 上